【ポスター発表】

地域包括ケアシステムにおけるインフォーマルケアの重要性

中山間地域におけるシステム構築に向けて

○　山口県立大学　　坂本　俊彦（8493）

横山　正博（山口県立大学・1708）

キーワード：地域包括ケアシステム、インフォーマルケア、中山間地域

１．研 究 目 的

本研究は、中山間地域に焦点をあて、その「地域特性」を踏まえた「地域包括ケア」の可能性を探ることを目的とする。

「地域包括ケア」とは、広島県公立みつぎ病院の先駆的な実践を源流としているが、「地域包括支援センター」設置(2005)、「地域包括ケア研究会報告書」(2010)等をもとに、焦点化されるに至った政策的概念である。しかし、「社会保障関係費の抑制」の観点のみならず、「住民による地域福祉文化の再構築」という観点に立つことで、これを多様な可能性を持つ概念として捉え直すことができる。

「地域包括ケア」とは、「自助」「互助」「共助」「公助」という多様な次元における多主体間の協働により、要援護者の在宅生活を支援する様々な活動を包摂する概念でもある。多主体間の協働を前提とするため、具体的なありようは多様にならざるを得ない。とくに過疎化、少子高齢化、集落機能の低下、産業の低迷、社会資源の不足等の課題を抱える「中山間地域」では、「都市地域」とは異なるシステムの構築が必要と思われる。このように、地域社会の多様性を踏まえて「地域包括ケア」の可能性を探る点に、本研究の特徴がある。

２．研究の視点および方法

本研究では、要援護者の在宅生活を支援する「ケア」を、①地域住民により互酬的な近所づきあいから自然発生的に展開される「慣習的インフォーマルケア(CIC)」、②地域住民により対象者のニーズ充足を主目的として意図的に展開される「人為的インフォーマルケア(AIC)」、③行政／専門職によって展開される「フォーマルケア(FC)」の３つに区別し、①～③の適切な組み合わせにより、要援護者の在宅生活が支えられるものと仮定。①～③全てが充実の「類型Ⅰ」、①～③全てが不充実の「類型Ⅳ」を両極に配置し、その中間に①の充実／不充実を以て「類型Ⅱ」「類型Ⅲ」を設定した。これらはさらに、②及び③の充実／不充実の組み合わせにより、各々ａ～ｃの下位分類を設定することが可能となる。

このように演繹的に分類された４類型８分類（類型Ⅰ、類型Ⅱa, Ⅱb, Ⅱc、類型Ⅲa, Ⅲb, Ⅲc、類型Ⅳ）のうち、本研究では、「類型Ⅱ（中山間地域）」でありかつ②が不充実、③が充実である「類型Ⅱb 型」に分類されるＡ県Ｂ市Ｃ地域に在住する要援護高齢者夫婦を調査対象とした。具体的には、地域包括支援センターの協力を得て、対象者及びその支援

にあたる専門職及び民生委員からの聞取調査を 2012 年 10 月から 11 月にかけて実施した。その内容をもとに、対象者夫婦の現状と将来予測、支援のあり方とその課題について整理し、研究者の主催により、2012 年 11 月に、対象者夫婦に対する支援のあり方を検討する会議（「模擬小地域ケア会議」：専門職、民生委員、福祉員等で構成）を開催した。

３．倫理的配慮

本研究は、研究対象となる高齢者夫婦、専門職、民生委員等に対して、研究目的と方法、公表の方法等を記載した文書を手渡すとともにその内容を口頭で説明し、研究参加の同意書を得る等、日本社会福祉学会の「研究倫理指針」に基づく倫理的配慮の下に実施した。

４．研 究 結 果

Ｃ地域は、行政支所、商店、病院、介護保険事業所まで車で 15 分以内に到達でき、選択の幅は限られているものの、中山間地域としては比較的生活条件が良いと思われる。また、道普請、葬式手伝い、おかずの差し入れなどが住民間で行われており、地域のまつりには転出子が手伝いに帰省する等、住民間の互酬的ネットワークも維持されている。住民の地域に対する自己評価も良好で、この度の調査についても「なぜもっと条件の厳しい地域を調査対象としないのか」という質問を受けるほどであった。

しかし、聞取調査の結果、対象者の生活は次第に状況が悪化し、在宅生活の限界点に近づいていることが予測されるにも拘わらず、民生委員、福祉員その他の地域住民がその事実に必ずしも気付いておらず、有効な手立てが講じられていないことが明らかとなった。この点について、「模擬小地域ケア会議」において関係者の間で共有されることで、対象者のニーズ充足を目的とする活動が地域住民によって展開されるに至った。

５．考 察

本研究によって得られた知見は、「地域包括ケアシステム」構築における「人為的インフォーマルケア(AIC)」の重要性である。今回の事例では、「CIC」は対象者の状況変化に対応できず、また「FC」にもサービス利用以外の情報が共有されにくいという課題があり、両者を媒介する「AIC」が有効に機能しなければ対象者夫婦の在宅生活は維持できないのではないかと推測された。さらに、「AIC」の発動にあたり、「模擬小地域ケア会議」による状況の共有が直接の契機となったことも強調すべき知見である。

Ｃ地域に限らず高齢化と人口減少が進む中山間地域では、限られた担い手が効率よく支えあうシステムの構築が不可欠となる。「AIC」の持つ媒介機能を高めるために、その「課題発見」「課題共有・検討」「課題解決」の効率的な方法について研究を深めることが、中山間地域における「地域包括ケアシステム」構築の重要課題と思われる。今後、大都市及び地方中小都市との比較の視点を持ちながら、この点をさらに検討していきたい。